

## 資料② 企業トップ 55 社・2012 年 年頭挨拶（概略）

～参考：日経産業新聞～

企 業 名	概 略
栗田工業 (中井稔之社長)	超純水供給などのサービス事業やグローバル展開を拡大・進化させる基盤を整える。技術力・人材力・総合力を強化する。
オルガノ (内田裕行社長)	ソリューションビジネスを拡充するとともに、変化への対応力を強化し、顧客・市場志向でスピード感のある事業展開をしていく。
リコー (近藤史朗社長)	これまでと同様に成長と体質改善を同時に実行する。ハードウェアの「モノ」だけでなく、サービスの「コト」を掛けあわせて厳しい競争を勝ち抜く。
富士通 (山本正巳社長)	「波乱の 11 年」から「新生の 12 年」へ、グループの力を結集して世界展開を図る。
日本 IBM (橋本孝之社長)	顧客の経営課題を解決するためにコンサルティングと IT サービスを融合して提供する。顧客企業の大胆かつ抜本的な「ビッグ・アジェンダ」の実現を支援する。
NTT (三浦愷社長)	一人ひとりが顧客視点を持ち、グローバルな視野で取り組むことがグループを成長させる。
楽天 (三木谷浩史社長)	グローバル展開をさらに加速させるためには、「ビッグ・コンセプト」が必要。国内外の経営陣、社員と議論するために新しいグローバルマネジメント体制・コーポレートガバナンスを構築する。
日本マイクロソフト (樋口泰行社長)	日本企業には従来の発想を超え、世界に目を向けて勝負する熱意と戦略が求められる。経営と業務執行の近代化や事業継続性のニーズが急速に高まる。
グリー (田中良和社長)	ジャンプアップするために、楽しく、そしてつらい 1 年にして後々いい思い出として振り返れるようにしよう。
日立マクセル (千歳喜弘社長)	グループの強みである、ユニークな技術やグローバルに広がる事業のネットワーク、マクセルのブランドを複合的に活用し、新たな価値を生み出していく。
NEC トーキン (岡部政和社長)	東日本大震災やタイ洪水など厳しい経営環境の中、この危機を契機に、事業の再構築や現場力の強化を図り、乗り切っていく。
FDK (望月道正社長)	足元の事業を一步一步着実に進め、中期経営計画の最終年度目標を達成する。
住友金属工業 (友野宏社長)	10 月に経営統合し、新日鉄住金として新しい一歩を踏み出す。総合力世界 No. 1 となる目標を全員が共有し、新しい会社に向けて力を結集しよう。
東ソー (宇田川憲一社長)	昨年 11 月の爆発火災事故もあり、取り組むべき経営課題は安全総点検。失った信頼を取り戻すために修繕費以外の固定費の削減、変動費改善に取り組む。
東レ (日覚昭広社長)	下期から世界経済は回復基調に戻る可能性が高いと予想しているが、当面は非常に厳しい環境が続くと想定する必要がある。
伊藤忠商事 (岡藤正広社長)	世の中の大きな変化を的確に捉えて機敏に対応し、時に常識を覆すような商売をぜひ開拓してほしい。攻めと守りをバランスさせることも大事。
ファナック (稲葉善治社長)	本年は決して楽な状況ではないが、産業用ロボットなどの成長分野でさらにシェアを伸ばす。
森精機製作所 (森雅彦社長)	難局を突破するために、自然に外国人とチームを組み、多様性を生かして仕事をする企業になるように、独逸「ゲルマニヤ」社との協業を進める。
牧野フライス製作所 (牧野二郎社長)	新素材など技術開発が進む様々な分野で、工作機械が既成概念を打破することを求めている。

企 業 名	概 略
富士電機 (北沢通宏社長)	今年も何が起きるかわからないが、掲げた目標に向かって進むのみ。一人一人が一緒に行動を起こしてくれることを期待したい。
全日本空輸 (伊東信一郎社長)	グループ創立60周年、還暦にちなみ「生まれ変わる年」にする。必要とされる商品、サービスを残す一方、強化すべきものには資源を投入していく。
J R 東日本 (清野智社長)	改めてゼロからスタートする覚悟で、震災復興にとどまらない「創造的再生」に向けた取り組みを加速していきたい。
三井不動産 (菟田正信社長)	国内の競争力強化に向け、成熟したマーケットで刻々と変化する顧客のニーズを新たな成長分野にする価値創造にチャレンジしていく。
住生活グループ (藤森義明社長)	今後もM&A（合併・買収）や業務提携を積極的に進めるほか、リーダーシップ教育や海外派遣を通じたグローバル人材の育成にも力を入れていく。
資生堂 (末川久幸社長)	「化粧の力」を通じて社会に貢献するため、商品やサービス、ブランドを徹底的に磨き上げる。
ミズノ (水野明人社長)	2012年を漢字で表すと「輪」。人が輪になってつながりを持つ絆となる年。車輪のようにたゆまぬ前進を目指す年にしたい。
江崎グリコ (江崎勝久社長)	既成概念にとらわれず、新たなブランド、営業、SCM、研究開発の戦略を構築していかなければ、戦いの土俵にすら上がれないことを強く認識してほしい。
コクヨ (黒田章裕社長)	大きく変化する日本市場で新しい価値提供を実現するモデルを作り上げ、成長するアジア市場において現地の人々に必要とされる商品・サービスを提供する仕組みをつくる。
パナソニック (大坪文雄社長)	全社員が旧習、旧弊を引きずらず、志を合わせてシグナを發揮。方向性の正しさを証明するのは成果のみ。厳しい環境でもチャレンジしていく。
京セラ (久芳徹夫社長)	発想の転換で他社が手がけていないことを行うことが重要。「必ず伸ばす」という強い思いが、新たな知恵を生み出す原動力となる。
東芝 (佐々木則夫社長)	新しいアイデアを次々と形にし、成長性確保と収益性改善を両立させたグローバル競争力を持った、利益ある持続的成長へまい進する年にする。
ルネサスエレクトロニクス (赤尾泰社長)	非中核と中核事業の選択と集中をより明確にし、売上の中身の入替のスピードを上げ、環境変化に追いつかなければならない。
TDK (上釜健宏社長)	急激な円高進行、レアースの高騰など、外部の市場環境に左右されないための構造改革を断行する。
KDDI (田中孝司社長)	自社のみが実現できる固定と移動の融合サービスで他社との差異化を図る。全社員がスピード感を持ち、たゆまぬ努力を続けていけば輝かしい未来が作れる。
ソフトバンク (孫正義社長)	通信網整備は社会的使命との思いを全社で再認識し、さらなる充実に取り組む。成長著しいアジアを中心とした企業と志を共有し、世界の情報革命を牽引する。
インターネットイニシアティブ (鈴木幸一社長)	インターネットの可能性を広げるための技術的な貢献だけでなく、安全・安心な情報通信基盤として使える取り組みを進めて社会に貢献する。
日本オラクル (遠藤隆雄社長)	企業には様々な事態に迅速な意思決定で対処する変化対応力が求められる。製品・サービスの提供を通じ、期待を超える価値を提供し、「感動」を呼ぶ事業を推進する。
武田薬品工業 (長谷川閑史社長)	「グローバル・リン・タガ」というビジョンを共有し、変革の主役としてそれぞれの使命を果たし、未来を切り開くと確信している。
アステラス製薬 (畑中好彦社長)	当社の価値は、サイエンスの進歩を患者さんの価値に変えて届けること。グローバル・カテゴリー・プレーヤーとなることを思い起こし、力強いスタートにつなげよう。

企 業 名	概 略
第一三共 (中山譲治社長)	高い目標への強い思いと意志、現実を冷静に受け止める素直な心、柔軟な発想があれば多くのチャンスが見えてくる。自ら革新して道を拓き、大きな飛躍の年にしよう。
エーザイ (内藤晴夫社長)	現場第一線にいる社員全員がスクラムを組んで考え抜き、幾重の戦術を立てて、新興国・発展途上国への貢献や製品価値の最大化に取り組み、さらなる患者様への貢献を果たす。
塩野義製薬 (手代木功社長)	今年が攻めの年。一文字で表すなら「進」。前を向いて歩みを進める1年にしたい。ターニングポイントは2012年だったと振り返って言えるよう、全力で前を向いて進んでいく。
信越化学工業 (金川千尋会長)	「強い営業・強い製造・強い研究開発」が強い会社をつくる。販売先行でマーケットを押さえ、将来の発展につながる設備投資を実施し、迅速に仕事に取り組む。
東京ガス (岡本毅社長)	既存概念にとらわれない思い切った変革と「安心・安全・信頼」の企業ブランドの堅持という、双方の視点を持って取り組む。
JXホールディングス (高萩光紀社長)	変化を恐れず成長を自ら担うとの気概を持ちながら、事業環境の変化に即応できるように早め早めの施策実行を心がけてほしい。
コマツ (野路国夫社長)	環境・安全性能の強化や「戦略市場」における販売・サービス体制の拡充など4つの重点項目にくわえ、さらなる戦略にも着手する。「ひとつずつ着実に」成果を積み上げよう。
三菱重工業 (大宮英明社長)	市場ニーズに対応した次世代製品開発、生産・調達の現地化など全社一体となって進めることが求められる。 昨年の品質問題に対して職場一丸となって信頼回復に努める。
日本郵船 (工藤泰三社長)	2012年度の最重要課題は黒字復帰。コンテナ船の建造は控え、ライトアセット化で事業存続を図る。
TOTO (張本邦雄社長)	需要拡大が見込める新興国での事業強化を図る一方、国内では、住宅のリフォーム市場で節水便器などの環境に貢献できる商品の提供により、リフォーム需要を取り込んでいく。
三井ホーム (生江隆之社長)	震災以降、消費者に広がる環境志向を意識し、全注文住宅を環境設計提案とすることにした。木造耐火建築などの販売にも引き続き注力する。
西武HD (後藤高志社長)	時期は未定だが、早期に良い形で再上場を迎えるためにも、社員一人ひとりが「自立としなやかさ」をモットーに、しっかりと各自の役割を果たしてほしい。
麒麟HD (三宅占二社長)	今年引き続き収益性向上に取り組み、コスト競争力強化に向けて、すべての業務プロセスにおいて、「ムリ・ムダ・ムラ」を排除する。
サントリーHD (佐治信忠社長)	逆境の時こそ真の力が問われると同時に、新しいことに挑戦するチャンス。我々が培ってきた「やってみなはれ」を発揮し、明るく楽しく愉快地に、あらゆる改革・革新に挑戦しよう。
サッポロHD (上條努社長)	国内外で「いかにサッポログループのファンを増やすか」が成長のカギ。世界的な大きな変化を柔軟かつ大胆に超えていかねばならない。
日本ハム (小林浩社長)	基軸事業を強化し、事業領域を拡大するとともに、海外事業を積極的に展開していく。環境は厳しいが、しっかりと先行きを見極めてまい進したい。